

～かなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～



つながる

函南町幼児教育センターたより11号



令和7年7月発行

連絡先 学校教育課内
幼児教育センター 979-8121

幼保こ小連絡会

小学校入学から2か月半が過ぎ、函南町内の小学校では幼保こ小連絡会が開催されました。連絡会には、送り出した子どもたちの様子を見るために、多くの園の先生が参加しました。卒園後わずかですが、園の先生方は子どもたちの成長を実感できたようです。今年度は園から小学校への円滑な接続を目指しゆるやかなスタートを進めるために、各小学校が取り入れている「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」がどのように進められているのかにも関心を持ち参観しました。また、園で取り組んできた活動が、学校生活の中で生かされている場面を見ることができ、より接続を意識する場となりました。あいさつや感想を一部ですが掲載します。

桑村小学校

開催日:令和7年6月17日(火)

<校長先生より>

低学年でチーム担任制を行っています。そのため、3人の担任が学習内容や個の情報共有し、子どもの様子を見守っています。3人の目で見ること、一人一人の違った一面を捉えることができています。また、園で行ってきた保育を理解し取り入れることで、子どもは安心して学校生活を送れるようになっています。

<担任の先生より>

「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」を取り入れたゆるやかなスタートを進めたことで、子どもたちは毎日楽しく登校できています。また、縦割り活動を取り入れたことで、上級生とかかわることがうれしいようで、学びのエネルギーとなっています。上級生とのかかわりは、子どもたちに大きな刺激を与えてくれています。



西小学校

開催日:令和7年6月24日(火)

<校長先生より>

1年生は明るく元気で、自分の思ったことを言葉にしたり、大きな声でしっかりとあいさつしたりできています。ただ、対人関係に弱い面も見られるので、自分で決めて考えることの積み重ねを大事にし、行動を起こした気持ちを大切にしていきたいと思います。

<参観した園の先生より>

- ・45分間椅子に座り、授業を受けていたことに驚きと同時に、子どもの成長を感じました。
- ・入学して2か月半しか経っていないが、いきいきとした姿や笑顔が見られたことに安心しました。
- ・人の話をしっかりと聞くことができていました。また、手を挙げて発表する姿を見て、園でも挙手してから発表するように心がけたいと思いました。



【1組の様子】



【2組の様子】

函南小学校

開催日:令和7年6月26日(木)

<教頭先生より>

入学して以来、毎日元気に、のびのびと生活をしています。円滑な接続ができるように、これから園と連携を図っていききたいと思います。

<参観した園の先生より>

- ・45分座っているだけでも、成長を感じました。
- ・園では控えめだった子ども、手を挙げて発表できていました。
- ・のびのびと自分を表現できていて、自分らしさを出せていたと思います。
- ・小学校の生活に、園の経験が活かしている場面を見ることができました。

<ゆるやかなスタートについて(1年学年主任)>

「ゆっくりやる」を合い言葉としています。給食や着替えもせかすことなく子どものペースで進めました。また、学校のルールを丁寧に説明したことで、子どもは学校に対して期待感が持てたようです。



【1組の様子】



【2組の様子】

東小学校

開催日:令和7年6月27日(金)

東小学校の幼保こ小連絡会は、第2回函南町接続研究推進会議と合わせて開催しました。この日は、指導講師の寶來生志子先生(東海大学准教授)にも、東小学校の1年生の授業を見ていただきました。

<寶來先生より>

教材は同じですが、クラスの進め方が違う[1組は担任があえて間違える、2組はゲーム性を取り入れる、3組は歌を取り入れる]のは、子どもを理解し子どもに合わせるという点ではとてもよいことです。黒板のマスとノートのマスの数は違うので戸惑う子が出てきます。そんな時には書画カメラを使うのも有効です。授業の中で、子どもが考えてできる内容を取り入れることが大切です。

<参観した園の先生より>

- ・楽しそうに授業を受けていました。また、同じ内容であったが、進め方が工夫されていました。
- ・子どもたちの反応がとてもよく、先生の問いかけや接し方が子どもたちにとって親しみやすいのではないかと思います。



【1組の様子】



【2組の様子】



【3組の様子】

丹那小学校

開催日:令和7年6月30日(月)

<担任の先生より>

ここまで欠席もなく登校できています。少人数なので一人一人に目が届きやすく、とてもフレンドリーです。4月の時より顔つきが変わってきて成長を感じています。ゆるやかなスタートを心がけているが、少人数だからこそできることが多く、自然と進めるペースも速くなっています。

<参観した園の先生より>

- ・園では消極的だった子が、先生に質問したり自分の意見を発表したりすることができていました。
- ・消極的だった子も3人の学級なので、自分らしさを出せているように感じました。



寶來生志子先生の講演より

東小学校の幼保こ小連絡会に引き続き、函南町接続研究推進会議を開催しました。今回の会議では、指導講師でもある寶來生志子先生が「みんなで伴走し、育てよう!函南町の子どもたち~架け橋期の教育を考える~」と題し講演を行いました。

◇架け橋期の課題

- ・接続期の取組は、年長児の担当及び1年生の担任が主にかかわるものという意識が根強く、園や学校全体で取り組むべきという考えがなかなか浸透していない。
- ・幼児期の教育の中に、個別最適な学びや協働的な学びはわかりやすく現れている。だからこそ、育ちと学びを丁寧につなぐことが学校経営の視点からも非常に有益であることを、校長が理解することが重要である。



ここでの「コワイ」というのは、
こうなっては困りますよという意味です

◇幼児期の教育と小学校教育のコワイ「円滑な接続」の姿

[A 園]

保育士主導型の一斉保育をしている。また、小学校に入学しても困らないように、幼児版「もじ」「かず」のワークに取り組んだり、見栄えのよい小学生顔負けの競技・演技を披露したりしている。

[A 小学校]

授業時間内にめあてを達成できたかが重要で、子どもたちは教師が提示した課題に答えている。教師が求める想定内の答えで授業が進んでいく。子どもはクラスの規律に従い、教師の指示通りに展開される授業がよい授業とされている。



A園とA小学校は一見円滑な接続をしているようだが、子どもは、『教師・大人が数えることをいかに早くできるようにすることがいいことだ』『大人が教えることは、学ぶ意味などわからなくても、いつかいいことがあるから勉強したらいいい』ということを経験して学んでいこう。

これではこどもの本当の学びにつながっていない。改めて子どもの学びについて考える必要がある。

◇つながるまなざしが生む一体感

子どもが自ら課題を見つけ、その価値を解決する力を身に付ける。そのためには、子どものつぶやきを拾ってきっかけをつくることで、子どもの考えるチャンスを奪わないことが大切である。先生は口出しし過ぎずに、子どもがやりたいことができるように環境設定をすることが大事である。

<学習院大学教授 秋田喜代美氏の話を引用>

まなざしがつながる瞬間

- ・場に参加できていない子が、自分の好きなことやこだわっていることを契機に心が動き始めたり、その言動によって周りの子どもや保育者・教師がその子の行うことへ興味や面白さを感じたりする瞬間
- ・一人の子が一つのことに夢中でも、別の子はそれに関心がないことは多々ある。ある子が他の子を援助したり、その子に思いを巡らせることで相互に支え合って動き出したり、折り合いを付けたりする。このとき、「子どもの関係がよいな」と感じた瞬間



小学校1年生の学級に虫が好きで、虫の探求で輝く子がいる。一方で、虫嫌いで拒絶する子もいる。拒絶する子は踊りが好きということから、「カマキリになりきって踊る」という提案でどちらの子も巻き込み、全ての子が参加し輝きだした。

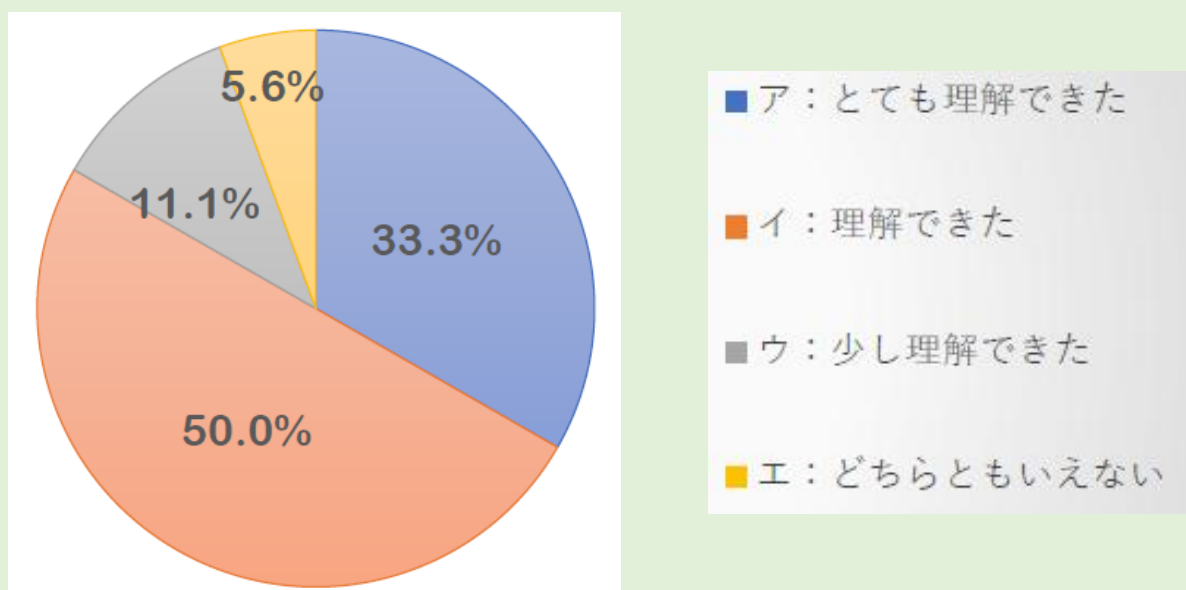
◇8月19日(火)の函南町接続研究推進会議の課題について

園と小・中学校の先生が集まり、どんな子どもに育ってほしいかを話し合うために、育ってほしい子どもの姿や目指す10の姿が現れている写真を持ち寄って話し合いを進めることで、園と小学校の共通点が見えてきます。その共通点が、円滑な接続を進めるためのヒントとなります。

※書式は既にメールで配信してあります。提出期限は8月4日です。

6月27日寶來生志子先生の講演後アンケート結果

1 架け橋期の教育を考えることについて理解できましたか。



2 今日のグループごとの情報交換で、どんな話題が出ましたか。 ※一部掲載

◇DVD を視聴してみんなで語り合ったことで、学校の先生方と共感し合ったり、もっと話したくなったりというコミュニケーションが、幼児教育と学校教育の垣根を低くしていくのだなと感じました。

◇DVD を視聴しての話し合いでは、子どもを理解する上で小学校の先生方との共通理解をもつことができ勉強になりました。

◇視聴した動画で心が動いたこととして、「個の課題が皆の課題になる様子」「自分の生活体験から知識を出して解決していこうとする姿勢」「生き物の立場になって考える心」「子どものやってみたいを生じさせる環境設定」等について話題にあがりました。

◇小学校入学までに、どの程度のことができればよいか。

◇対応が難しい子、保護者が増えていること。

3 今日の講演を受け、円滑な接続に向けて、自分の立場として取り組もうと考えていることをお書きください。

※一部掲載

◇幼児教育の環境設定を理解し、授業につなげていくことで、生徒の主体性を起こし、個別最適で協働的な学びのさらなる探求をしていきたいと考えています。

◇小学校との連携、保育園・幼稚園とも交流を増やしていきたい。子どもたちの興味・関心があることを見逃さず、楽しく活動に参加できるようにしていきたいです。

◇改めて「子どもの学びとは何か」を考えられるよう、難しい会議ではなく、語り合いの時間を設けて、自分も含め全体の意識を高めていきたいです。

◇円滑な接続の意義について、管理職や1年担任だけでなく全職員が共通理解できるように、職員会議や研修で紹介するよう担当者に指示します。

◇学びを子どもに委ねる意識を、1年部だけでなく、全教員がもてるように研修を通して声かけをしていきたいです。

◇何より先生方が園の様子を見る、肌で感じることで、円滑な接続に向けての意欲や新しい方法のアイデアを生み出すことにつながるので、そのような機会を作れるように声かけや段取りをしていきたいです。

